

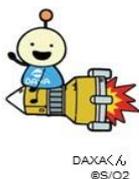
— 大樹町宇宙航空課ニュースレター —

Taiki Aerospace News

大樹中学校2年生総合的学習『大樹学』

大樹中学校では、ふるさと大樹の現状を見つめ直し、その課題解決に向けた方策を探るとともに、地域への理解を一層深めることを目的とした学習「大樹学」を実施しています。

2月19日には、各テーマごとに講師を招き、生徒が提起した課題について、その解決策を講師とともに掘り下げるワークショップを行いました。「大樹町の宇宙の取組みについてもっと多くの人に知ってもらうには」というテーマについて考えた生徒たちは、「道の駅の物産コーナーを、宇宙空間のような内装にする」「宇宙食を作るワークショップの開催」など、斬新な着想を示してくれました。生徒たちが、互いのアイデアを尊重し合いながら意見を交わすことで、考えをさらに深めることができ、実り多い時間となりました。



大樹町の宇宙の取組みにおける経済効果って？～今日のなんちゃら雑学～

経済効果とは、ある出来事や事業によって、どれだけお金が増えたかを表すものなんだって～！

大樹町に射場が完成して、年に複数回のロケットが打ち上がることで、北海道内に年間約267億円もの経済効果があるといわれているんだよ！

これには、射場の維持やロケットの打上げ費用、観光客が消費する費用等が含まれているんだって～！

大樹高校2年生 地域デザイン成果発表会

2月19日、大樹高校にて2年生による地域デザイン成果発表会を行いました。本授業は、地域課題解決型の地域探求授業であり、学生それぞれがテーマを設定し、調査や考察を通して、町について知るところを目的に行われています。

発表会では、2年生の道見さんが「大樹町民に大樹の宇宙産業を理解してもらうには」というテーマで発表しました。

町民や若い世代が宇宙を身近に感じていない背景があることをふまえ、大樹高校生を対象にし、講師に宇宙航空課の職員や町内の宇宙関係者を招き、「宇宙の取組みが町に与える経済効果」や「射場整備やPRのための資金用途」についての講義やトークセッションを行う座談会の実施を提案しました。実施計画から効果検証方法について記載された企画書を提示し、参加者との意見交換を通して、実現に向けて学びを深めている様子でした。



YAC分団活動in大樹高校

1月24日（土）、大樹高校にて分団活動を実施しました。

今回の活動では、大樹高校の「大樹宇宙ボランティアサークル」に所属する生徒の皆さんが講師となり、エアロケットの制作から打ち上げまでを分団員へ丁寧に指導していただきました。

1回目に製作した機体は、思うように飛ばず苦戦する場面も見られましたが、高校生からのアドバイスを受けて改良に挑戦。修正後の機体では、ほとんどの分団員が記録を大きく伸ばすことができました！試行錯誤を重ねながら、笑顔あふれる充実した活動となりました。

今後も分団活動を通して、大樹高校の生徒との交流の機会を広げていきます。



【工作の様子】



【体育館にて打ち上げ】

国際産業宇宙展ISIEXに出展しました！

1月28日から30日にかけて開催された国際宇宙産業展ISIEXに出展しました。本展示会には、北海道庁、北海道経済連合会、株式会社キメラ、北海道航空宇宙ビジネスネットワーク（HAB）、空蘭航空宇宙産業ネットワーク（MAS-NET）と共同で出展しました。

ISIEXは、日刊工業新聞社が主催する、宇宙ビジネスに特化した日本最大級の展示会です。会場には、ロケットの開発・製造をはじめ、衛星データの活用、月面探査、宇宙生活支援など、幅広い分野の技術やサービスが集まり、国内外の企業や団体が活発に情報交換を行う専門的な交流の場となりました。

